

第69回

ベルリン国際映画祭パノラマ部門

国際批評家連盟賞受賞

# わたしはダフネ



快活な娘ダフネと老父ルイジ。

家族の死を乗り越えるためのトスカーナへのふたり旅。

じんわりと心に響く珠玉のイタリア映画

厚生労働省

社会保障審議会 推薦

[ 中学生以上、保護者・  
指導者等、一般(啓蒙) ]

突然、愛する母を亡くし、心に穴が開いた父と娘。その娘はダウン症のある子供だった。

22歳の時、私の母が突然死んだ時を思い出した。

偉そうにしていた父は生きる気力を無くし、弱くなった。しかしダフネは負けない。

母に会うための、美しい再生のロードムービーだ。

## 宮本亞門 (演出家)

真実を見ることを恐れないまなざし。

今たくさんの方が求めている力かもしれない。

ダフネの正直すぎる生き方に、固くなった心がほぐれていく。

作品の持つ圧倒的な明るさに救われた。

## 石橋静河 (俳優・ダンサー)

ダフネのシニカルで寛容な優しさは、この映画の1つ目の奇跡だ。

その優しさがダフネの行末を案じながら、

その出生を喜べなかった負い目にさいなまれる父の魂の殻をはがし、

真実の魂を救い出した。これは2つ目の奇跡だ。

3つ目の奇跡はネタバレだ。プレゼントとしか記せない。

観て、その衝撃を味わってくれ。

## 志茂田景樹 (作家・よい子に読み聞かせ隊 隊長)



ダフネが教えてくれる。  
大事なものは、自分を好きになること。  
人を信じること。

ネガティブになりがちな、今こそ観て欲しい——

軽やかなユーモアと、静かに胸に迫る愛に

各界著名人からも、共感コメントが続々到着!



私には沢山のダウン症の友達がいる。

だから「ダウン症はみな天使」と甘い言葉でまとめたりはしない。

一方で「ダウン症はかわいそう」という人がいる。そうだろうか?

ダウン症のヒロインを演じたカロリーナを見てほしい。

彼女の言葉は本質を突いている。セリフではなく、心からの魂の言葉だ。

彼女の最後の一言に私の心が持っていかれた。

## 笠井信輔 (フリーアナウンサー)

「人生はしんどいの」。最愛の人を亡くしても安定剤に頼らない。

悲しみは受けとめる。逃げない。カッコいい生き方。

ダフネに触れると、みんな彼女を好きになる。人たらしだ。

こうやって生きればいいのか。教えられた。

コロナストレスに負けない生き方のヒントが山盛り。

今こそ観てもらいたいステキな映画だ!

## 鎌田實 (医師・作家)

これは障害者の苦難とそれを乗り越える感動を描く、ハートフルストーリーではない。

家族とは、愛でつながり、もがきながらも背中を任せ合うチームであると気づかせられる、

サバイバルストーリーだ。

## 岸田奈美 (作家)

大事な誰かを亡くした経験のある人なら誰でも、ダフネの想いに共感できるはず。

母の故郷を訪ねる父ルイジとの旅の終わり、ダフネの母への想いが語られるとき、

熱いものが胸の奥からこみあげてくるのを、どうぞ、我慢しないでください。

## 永千絵 (映画エッセイスト)

人生を物語と考えれば、いろいろなことがあって当然。

喜び、悲しみ、もやもや、持ってるもの、持っていないもの。

みんな違うし、全部が違うわけでもない。

みんな色々な事情があるけど、

なるべく素直にお洒落に向き合っていきましょう!と

ダフネに言われたような気持ちになりました。

## 星野概念 (精神科医など)

